

「日々の支援を通じてノーマライゼーションを深く考えてみた」

○発表者名 社福) 祥和会 祥福園 : 生田将司
共同研究者名 社福) 祥和会 祥福園 : 青木隆、坂田良治

1. 問題提起

ノーマライゼーションの理念は、障害のある人が地域社会の中で健常者ととともに暮らし、共に活動できることを目指すものである。しかし、依然として多くの障害者が入所施設で生活しておりノーマライゼーションの実現にはさまざまな課題が存在している。これは当施設とて例外とは言えない。入所施設は、障害のある人にとって一定の支援や医療ケアを受けられる場である一方で、社会との分断を生みやすく個々の自由や選択の機会を制限する要因ともなり得ると一般的に考えられている傾向がある。

まず、入所施設の最大の問題点は、障害者が地域社会から切り離されてしまいがちだということである。施設の多くは、一般の人々と日常的に接する機会が限られている。その結果、施設の利用者は社会とのつながりが希薄になりがちで地域の一員としての実感を持ちにくくなっていると考えられる。また、一般市民にとっても障害者と関わる機会が少なくなるため、障害者への理解や共生の意識が十分に育ちにくいという悪循環が生じている。

大規模な施設では個別のニーズに対応しにくくなりがちでもあり、画一的な支援になり易い傾向がある。多くの施設では集団生活が基本となるため、起床時間や食事の時間、入浴の順番など、日常のスケジュールが一律に決められている場合が多いのが現状。

これは、ノーマライゼーションの理念である「個人の尊厳」や「自己決定権」に反する状況を生み出しかねない。

2. 目的

重要な目的の一つは、障害者のQOLの向上である。施設内での生活で一律に管理的な支援がなされてしまうと、個々の選択の自由が制限されてしまう場合がある。そのため、利用者が自分の意思で日常生活を決定できるような仕組みを作る必要がある。例えば、食事のメニューを選べるようにする、外出の機会を増やす、個室のプライバシーを確保する、やりたいことが自由にできるなどの取り組みが必要。生活の自由度を高めることで利用者がより快適に過ごせる環境を整える。

自立を支援することも大きな目的の一つである。入所施設に長くいることで生活スキルや社会的な適応能力が十分に育たないケースがあり、退所後の生活に困難を抱える人も少なくないとのことである。そのため、施設内で段階的な自立訓練を行い、将来的にグループホームや一般住宅での生活に移行できるように支援しなければならない。後で述べる方法と重複するが、例えば、金銭管理のトレーニングや、調理や掃除などの家事スキルの習得、職業訓練を通じた就労支援などが挙げられる。それらのスキルを習得するには計画を立てスローステップで行うようにして利用者様にとって無理にならず負担が少ないように支援しなければならない。

3. 方法

日常生活スキルの向上を支援することが欠かせない。入所施設では食事や掃除、洗濯などの日常生活の多くを職員が率先して行ってしまうことが多くなってしまいがちで、利用者が自分で生活スキルを身につける機会が少なくなってしまうことがある。しかし、地域で自立した生活を送るためには、基本的な家事スキルや健康管理、金銭管理の能力が必要である。そのため、施設内で自主的に食事を作る機会を増やしたり、買い物や公共交通機関の利用方法を練習したりするなど、日常生活のトレーニングを積極的に行うことが効果的であると考

祥福園A


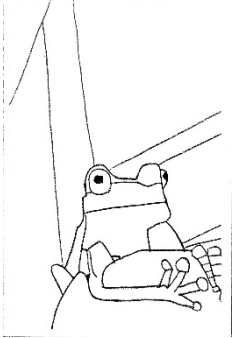


えられる。また、利用者が自分で判断し、選択できる場面を増やすことで、自主性や自己決定能力を育てることができる。

地域社会とのつながりを強化することも重要な支援方法の一つ。入所施設にいる利用者は、どうしても地域社会との接点が少なくなってしまう。しかし、社会の一員として生きていくためには、地域の人々との交流が不可欠。そのため、施設外での活動を積極的に増やすようにして地域のイベントやボランティア活動に参加できる機会を提供する。しかし、いずれも一気に行っていくことは利用者にとって大きなストレスになりかねないので、今できることや得意なことを伸ばしていくことを手始めに継続した支援をしなければならないのではないかと考えた挙句、当研究に協力された利用者においては、

- ・絵を描くことが好きで得意なので、そのスキルを伸ばしつつ社会とのつながりが保てるように支援をする。
- ・作成した作品に付加価値を見出し商品化して販売。それが販売された分の報酬を得る。
- ・新しい作品作りに挑戦する。

以上のことについて支援をした。

4. 成果・課題

作業環境の改善と作風の変化	変更前	変更後
<p>狭い座卓で作業していたところ、足への負担軽減と資料等広げるスペースの改善として、テーブルと椅子で作業ができるように改善。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>これにより、長時間の作業が可能になり、それまでデッサンだけで終了していたところ、着色に挑戦することができるようになった。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div>	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div>

その他、美術館へ通い作品を観覧するとともに社会とのかかわりをもつように試みる事ができた。作品を商店で販売し、その販売店に赴き店主と面会。これらを通じて以降の作品を楽しんで制作することができるようになってきた。

社会とのつながりは今のところまだ希薄であるため、これからも作品作りを通じて社会の一員としての実感をもってもらえることができるように支援していく必要があると感じた。